

## 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 9 日  
東京電力株式会社

### < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/9 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	22.7	106.9 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.6 m <sup>3</sup> /h	35.7	5.45 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h	34.5	0.26 kPa g	A系： 0.16 Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.15 vol%

\*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/5/9 13:20 常用高台炉注水ポンプの切替に伴い、1～3号機原子炉への注水量の変動が確認されたため、以下の通り注水量の調整を実施。

[1号機] 給水系からの注水量を約 2.2 m<sup>3</sup>/h から約 2.5 m<sup>3</sup>/h に調整。炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9 m<sup>3</sup>/h から約 2.0 m<sup>3</sup>/h に調整。

[2号機] 給水系からの注水量は約 2.0 m<sup>3</sup>/h で継続。炉心スプレイ系からの注水量を約 3.6 m<sup>3</sup>/h から約 3.5 m<sup>3</sup>/h に調整。

[3号機] 給水系からの注水量を約 1.8 m<sup>3</sup>/h から約 2.0 m<sup>3</sup>/h に調整、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.2 m<sup>3</sup>/h から約 3.5 m<sup>3</sup>/h に調整。

### < 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/9 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	17.5
2号機	循環冷却システム	運転中	16.8
3号機	循環冷却システム	運転中	14.5
4号機	循環冷却システム	運転中	25

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドラジンの注入を適宜実施。

### < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	5/7 9:50～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	4/24 17:08～ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

#### < 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/9 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

#### < 5 . その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/5/9 港湾内における魚類の移動防止対策として、港湾口においてH25/2/8に底刺し網を設置しているが、当該の底刺し網を二重化する作業を実施。

・H25/5/9 9:44 6号機補機冷却系熱交換器(A)出入口弁点検に伴い、使用済燃料プール冷却系を停止(停止時プール水温度:15.8 )し、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却する運用を開始。

#### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

##### < 拡散防止対策 >

5/8, 5/9 地下貯水槽 No.1 ~ 3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ戻す処置を実施。また 5/9, 地下貯水槽 No.2 ドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

##### < サンプルング実績 >

5/8, 地下貯水槽 No.1 ~ 7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1 ~ 4, 6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)についてサンプルングを実施。分析の結果、地下貯水槽 No.1の漏えい検知孔水(北東側)について、前回の分析結果と比較して上昇が見られた(塩素濃度:46ppm 120ppm、全ベータ: $1.3 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$   $4.0 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ )が、その他の箇所については前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、地下貯水槽 No.2周辺では新たな分析箇所である観測孔(2箇所)において、全ベータが検出限界値未満であることを確認。

なお、5月1日に採取した、地下貯水槽 No.1 ~ 4, 6のドレン孔および漏えい検知孔の水について、トリチウムの分析を実施した結果、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上

5/9 に実施した、地下貯水槽からの漏えいに関する拡散防止対策について、「また 5/9, 地下貯水槽 No.2 ドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。」との記載が漏れておりました。お詫びして訂正させていただきます。(訂正日: H25/5/13)